

こども園評価の報告書（認定こども園豊栄保育園）

評価項目	取り組み状況
<p>教育・保育方針 全体計画・指導計画 こども園として特に配慮すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育・保育課程 ・教育環境の整備 ・研究の取り組み 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝礼、職員会、園内研修の場を通して、「限りなく伸びていく可能性を秘めた子ども達が、現在を最も良く生き、望ましい未来をつくりだす力の基礎を養う」という基本理念を基に、全職員、教育目標・保育方針を確認し、子どもたちが生活や遊びや保育活動の中で自ら考え、積極的な意思表示や意欲的に他者と関わられるようになるための保育について、学びを深めた。 ・幼児では、自分の思いを言葉で表すことが苦手な子どもも多いので、表情や目線などから、気持ちを汲み取り、身振りや指差しや手引きなど意思表示にはどんな方法があるのか、保育教諭がモデルとなって見せていくよう心掛けた。 ・相手に対して自分の思いをどう伝えるのか、また相手の思いに気付きどうしたらいいか子どもたちと一緒に考えていけるような取り組みを行うことができた。
<p style="text-align: center;">健康支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・オンラインシステム「コドモン」を活用し、登園前までの自宅での様子（食事、睡眠、健康状態等）保護者に入力してもらうことで、園児一人一人の健康状態を家庭との日常連携のもと把握できた。また、職員間で園児一人一人の健康状態、家庭からの園児の情報を共通理解するよう努めた。 ・「保健年間計画」に基づき、園医による総合的な健康診断、歯科検診などを通して園児一人一人の健康状態を把握し、各年齢のクラス担任と看護師が連携を図り、健康管理を行った。 ・保護者には、園児と家族を含めた健康観察をお願いし、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に努めた。 ・保護者とのコミュニケーションを図り、家庭状況や健康状態の把握を連携しながら行えるよう努めた。
<p style="text-align: center;">安全管理</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の安全点検では火災（水消火器を使った消火訓練を含む） ・地震 洪水・不審者の侵入などを想定して訓練を行った。その都度担当者を中心に課題や改善点を出し合った。 ・園内の安全点検や修繕、避難訓練、アレルギー対応等を全職員で点検やマニュアル確認を定期的に行っている。 ・施設の安全点検は毎月1回複数の職員で行い、修繕及び改善につなげた。 ・自然災害では想定外のことも起こりうるので、水害も含めた災害時対応マニュアルの再確認や職員への周知徹底をした。
<p style="text-align: center;">食育の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園内でバケツ稲栽培や菜園活動を行い、成長を楽しみにしながら世話をし、収穫したものを調理して、食するという体験を中心に計画し、進めてきた。 ・植え付けから水かけ等の管理まで子どもたちで行い、成長を楽しみにし、できた作物を口にするまでには、日々の細やかな愛情をかけた世話が不可欠であると感じることができた。 ・収穫した野菜は、給食で提供されたり、クッキング体験をしたりして、旬のおいしさを味わった。自分たちが育てたという事で、野菜に興味を持ったり、嫌いだった野菜も少し食べてみようと思ったり、子どもたちに意識の変化が見られた。 ・各クラスで、年齢に応じた絵本や紙芝居等を通して食への興味・関心が育まれるようにしてきた。
<p style="text-align: center;">関係者評価の取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・評議員会では、こども園が小さい時から友だちと一緒に、家庭ではできないことを経験できる場所であること、1歳児から5歳児までの教育保育が連続性や多様性を持って行われていること、また子どもたちにまかせながら自主性を育てている教育保育に評価をいただいた。

<p style="text-align: center;">子育て支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入所している 子どもの保護者 ・地域の子育て家庭 ・地域との連携 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びや活動の中で子どもたちにどんな力を育てたいか、どんな力が育ってきているかを確認するため職員会議、ケース会議を実施し、意見交換をした。 ・保護者とは日々の丁寧な連絡帳のやり取りで子どものことを伝え合い信頼関係を築き、子育てに悩みや不安がある時は適宜に面談を持ち、話を聞くようにした。 ・園児、保護者、それぞれ個々の状況を的確に把握することに努め、必要に応じて他の専門機関と連携し情報提供したり、子育ての不安や悩みについて共に考えたりするようにした。 ・在園児の保護者とは、出来るだけ連絡帳を通して園児の様子を伝え合い 足りない部分は 個人面談等で補うようにし、職員も保護者と共に子育てをしているという思いであることを伝えてきた。
<p style="text-align: center;">教育・保育内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・養護・健康・人間関係 ・環境・言葉・表現 	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の保育に加えて、作業療法士による発達支援相談を通して、保育教諭と子どもの価値観や感じ方には違いがあり、職員が自分の価値観を当たり前として捉えず、柔軟な発想をもって違う意見を言える場があり、違いを認め合える集団を作っていくことの重要性を学んだ。 ・園児が保育教諭との信頼関係の中で、安心して園生活を送り、遊びを通して友だちとの関係を深め、人とつながり生きる力の基礎を培うことが出来るような教育保育を目指してきた。 ・感染予防に関する知識を子どもたちと共に学び、手洗いや消毒に努め、感染予防についての意識を高めることが出来た。
<p style="text-align: center;">特別支援教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者との連携を密にし、また、作業療法士による発達支援相談を通して、保護者の願いや思いを十分受け止めた上で 子どもを中心に据えて両者がぶれない考えで関わり、支援を進めていくようにした。 ・「個別の支援計画」については、保護者の思いを大切にすることを基本に作成した。また、保護者との信頼関係を築いていくために、情報の共有を大切にすること口頭、個人連絡帳での伝え合いに努めた。
<p style="text-align: center;">職員の資質の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園内での子どもの姿を話し合う中でクラスの課題を明確にし、子どもの理解を深めると共に、活動内容や職員の関わり方等を考えていった。 ・研修会については、出来るだけ参加できるよう調整し、参加者には研修報告の場を設ける等して職員が共有出来るようにした。 ・自ら考え、見通しを持った計画を立て、積極的に仕事と向き合える職員の育成をめざしてきた。限られた人員で、一つの職場を運営していくためには自分の仕事に責任を持つこと、周りを見ながら協力し合っていくこと思いやりの気持ちを持ってチームとして仕事をしていくことを大事にしたいと考える。
<p style="text-align: center;">幼保小中の連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・幼保小連絡会に参加し、具体的な事例を挙げながら意見交換し、それぞれの施設の役割や課題について考えた。また、切れ目のない支援をしていくために、どうつながりを作っていくかということが討議された。 伝え合いを大切にすることを確認した。 ・就学前の子どもの状況については、小学校と連携を深めてきたが、入学以降の連携についてはまだ不十分なところもあるので、今後の課題にしていきたい。
<p style="text-align: center;">・保護者支援・保護者の自己決定の尊重・接遇</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な生き立ちや生活スタイルが違う保護者の方に対して、相手の立場に立ち、寄り添いながら信頼関係を深めていけるよう、園本位での提案だけでなく保護者一人一人を尊重できるよう、職員の資質向上と接遇に努める。

以上のとおり報告します。

令和5年4月1日

認定こども園豊栄保育園
園長 中村博樹